

2024年度 あかしSDGs推進審議会 分科会B(議事要旨)

日時	2024年(令和6年)11月15日(金) 10:40~11:40
場所	市役所議会棟2階 大会議室
メンバー	[司会]坂下会長 飯塚委員、小河委員、木戸委員、堂本委員、宮川委員、森川委員 (50音順)
テーマ	①柱2 「笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる」 ②柱3 「こどもの育ちをまちのみんなで支える」

(会長)

それでは、分科会Bを開始します。

「笑顔あふれる共生社会、インクルーシブ社会をつくる」について議論していきたいと思えます。インクルーシブ社会は実現されていっているのでしょうか。

(G委員)

インクルーシブ社会を実現していくという、流れはあるので、もちろん今後も期待しています。まず、やさしいまちという形で、うまく広がっていけばと思っています。

バリアフリー化も進んできていますが、前市長の時は明確に進めると言っておられたので安心していましたが、今後どうなるのかきちんと見ていきたいと感じます。

(H委員)

聴覚障害の私としては、山陽電車の駅が無人化していっているというところに不安があります。理由としては、駅で何かあればインターホンでの対応で、モニターでの対応になっていけませんので、向こうからは見えますがこちらからは見えません。双方向のモニターになればいいなと思っています。

(会長)

人が集まるところは、バリアフリー化も進んでいる感じがしますが、十分に行き届いているかということが今後の課題だと思います。

(B委員)

マンション住まいなんですけど、昔から住んでいる人と、そうでない人の会話がなくて、どうしたら溶け合えるのかということが課題だと思っています。

(会長)

私も同感です。住んでいる地域は、比較的地域活動が盛んな地域ではあるのですが、新しく引っ越してこられた方とは、分断が起きているのが気になります。

ボランティアや地域活動をされている人の高齢化が進んでいまして、次の担い手がいなくて、ほとんどの方が80歳以上になってきています。でも、皆お元気で、私はどんなスポーツクラブに通うより、ボランティア活動をすることが健康になるのではと思っています。

学生の1学年の全員が、地域に出て、地域の人に健康を支えるのは何かという授業を展開しているのですが、地域活動をされている方々は生き生きしているけれども、そこに踏み出すのが難しいという話になっていたりもします。

(I委員)

西明石が再開発されており、今後地域活動がどのように変化するのかと思っています。前から住んでおられる方は理解しておられると思いますが、新しい方が入り込めていないと思います。分断の原因をしっかりと理解した上で対策を練る必要があると思います。

(会長)

新しく住み始めた人は、共働きの方がほとんどで、日中は地域にいらっしゃらないです。明るいうちに地域におられるのは、小さなお子さんがいる方か、高齢の方だけで、昼間はおられないというところも、課題だと思っています。従来は割と近いところにお仕事に行かれていたけれども、明石だと大阪のベッタウンにもなっていますので。

一度地域活動に参加したら、楽しいですが、すごくハードルがありますよね。私も実習場所を地域にしなかったら、よくわからなかった一人じゃないかなと思います。

(I委員)

若い人は、スポーツイベントなら参加される率が高いですね。

(J委員)

ここ数年、自治会の役員をしまして、朝霧台は、80%以上90%近くが自治会に加入しています。戸建てしかないことも影響しているかもしれませんが、新しく住み始めた人も、不動産屋さんで自治会に入ってくださいと案内を受けているということを聞きます。ただ、加入率は高いのですが、自治会で旅行をすると、昔から住んでいる人と新しく住み始めた人で分かれてしまいます。アンケートには答えてくれるけれど、若い人はこどもの習い事など、土日忙しいので来れないです。

県民局で、回覧をLINEですするという研修を3年前に受けて、今朝霧台では回覧の電子化を進めていて、私のスマホには朝霧台のアプリが入っています。回覧の電子化といきなり言うと引かれちゃうので、内容をぼやかして総会に提案し、会長も賛成してくれたため、取り組みを始めました。200数世帯にアンケートを実施したりして、3年経過していますが、まだ時間をかけてやっている途中です。このLINEは、普通のグループLINEではなく、ソフトバンクと組んで、オープンチャットのページを作っています。これに入っている方は、広報あかしや市からの書類もいつでも見られるようになっています。

自治会がまとまるには、ひとつの目標に向かうことが大事だと感じています。

(会長)

それは、市に提案して広めていってほしいですね。

(J委員)

市の担当は、コミュニティ・生涯学習課なんですけれど、他地域はなかなか難しいみたいで、朝霧台だけがうまくいっていると聞いています。

いちばんしんどい、大変な部分を背負ったら、他の人も向かってきて、まとまるというか、新しく住み始めた人も、昔から住んでいる人も、一つの目標を掲げて一緒にやるというのがまとまる一つの手法だと思います。

アプリを入れた人は、便利便利と言ってくれています。

(K委員)

J委員とは朝霧川を挟んだ向かいに住んでいますが、私の地域は開発されて50年たっており、私の地域だけでも14人のうち7人が高齢者の一人暮らしなので、システムを入れてというのは夢のまた夢です。

(B委員)

災害の時なんか、良いですね。

(会長)

学生がお手伝いできたらいいなと思いました。

(K委員)

この間、瓦がずれているから上がって見てあげるといって怪しい人が来て、私は怪しいと知っていたので断ったが、今特殊詐欺とかも多いので、回覧で注意と回したりしました。

(J委員)

うちにも怪しい人が来て、インターホンで写真が取れたので、注意するようにすぐにLINEで配信しました。

(K委員)

すごい。

この辺りは一人暮らしの高齢者が多いのと思われているので、人が回ってくるのが多いんです。

(会長)

次は、「こどもの育ちをまちのみんなで支える」ということで、安心して子育てができる環境について考えてみたいと思います。

明石市は、制度的には充実しているかと思うのですが、急に子育て世帯が増えたので、待機児童や、学校も急に子どもが増えてといった問題も出てきているように思います。

引き続き、体制を整えていってもらえないかと思うのですが、皆さんはいかがでしょうか。

(I委員)

明石市の子育て支援は制度的に充実していることから、メリットを感じて、家族3人で賃貸に転居してこられることが、人口増加の要因となっているケースが多いと思います。何年か後子育てが済み、明石市から出ていくケースが多くなると、児童対応施設や制度がすぐわなくなる。今後の人口変動も視野に対策を考えることがベターだと思います。

(J委員)

子どもが就職して帰ってこない、勤めた先で結婚したら、もう明石には戻ってこないという現象になっていると思うんです。実際、家の2階は空いており全然使われていないといったところがあるので、5年後、10年後の人口の変動を分析して、それにあったものを考えないといけないと思っています。

(H委員)

明石で育ち、明石で働いており、ずっと住んでいますが、出ていきたいとは思っていません。今明石が変わってきつつあるので、いいなと思っており、ますます明石が好きになっています。

(B委員)

なんかおいしい所だけいただいて、大学で外に行ってしまうし、就職も明石では求人とか見ても飲食や介護が多く、若い人が働きたいと思うような今風のIT企業などが無いように思うので。

(会長)

明石にも大企業は色々ありますが、勤めている人が必ずしも明石に住んでいないということがもったいないなとすごく思っています。

(B委員)

ずっと住んでいただけるんなら、今のままで良いんですけど。本当にそう思います。

(会長)

せっかく、大企業の工場がいくつかあるので、その人たちに明石に住んでほしいですね。企業に考えていただければいいんですかね。

以前は川崎重工の重役さんなどが、藤江のあたりに住まれていましたが、どんどん退職になられて、新しい方は住まれていないように思いますね。

(H委員)

川崎重工に勤めているんですけども、明石市に住んでいる人はたくさんおられますよ。若い人もいると思います。

(K委員)

子どもが増えていることは実感していて、あまり、子どもさんや若い人との付き合いがないんですけど、朝霧小学校では子どもがすごく増えていて、コミセンで会議室を使わせてもらっていたのですが、教室が足りないということで明け渡しまして、児童クラブでも子どもがすごく増えているみたいで、にぎやかでいいですけどね。

ふれあいサロンの中でいろいろしても、10人の内2人ぐらいしか男性が来ないので、数年前からふれあいサロンで麻雀をしていて、これだと男性が来てくれます。ふれあいサロンは高齢者ばかりですので、子どもとのふれあいをしたいと思って、夏休みにこの人たちに指導者として来てもらい、子ども向けに大きな麻雀牌を使ったゲーム大会をしたんです。子どもも40人ぐらい参加して、盛り上がったので来年もしたいと考えています。地域で、お年寄

りと子どもや子育てしている方など、みんなで支え合うことができないかなと考えています。

(会長)

最後に、今後力を入れてやってもらいたいことについて、今までもたくさん出ましたが、皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

(I委員)

今後フレイルに対する取組が大切だと思います。ただ、フレイルに対する認識が難しく、本人自身は自覚していないケースが多いので、専門職が気づかせてあげて高齢者の重症化を防ぐという予防策がポイントだと思います。現時点ではどのような対策をされているかお教え下さい。また、今後どのような取り組みをすれば良いのかを熟知した上での対策が望ましいと思います。

(会長)

チェックをして、その後促進する取組に力をいれていってほしいってことですな。

KPIの平均寿命と健康寿命の差はまだ△ですからね。

(J委員)

子育てで、明石では今小さい子にスポットが当たっていますが、中高生にも手を差し伸べる政策が必要だと思います。明石でメリディアンマーチングフェスタをしていて、そこに参加している中高生の方の悩みなんかを聞くと、部活がどんどん変わっていつているので、その問題があったり、フェスタには神戸市の学校も参加されますが、神戸では部活は外部から先生を呼んできて指導するような、そういった組織に持っていこうとされていたり、上で決めるのではなくて、彼ら彼女らの考えていることに寄り添ってほしいです。気がついたらPTAがなくなっているとか。

(会長)

PTAが消えているのは残念です。あそこでできたネットワークが今の地域活動を支えているので、まあその人達が高齢化してっていうのはあるんですけど。やっぱりその組織づくりは大切です。

(J委員)

どうしても控えめになる性教育とか、エイズ撲滅とかも大事なので教育の一環として入れるべきかなと感じています。彼女たちと直に話をしている、ぼろっと出てくる言葉に、そう感じます。

(H委員)

ろうあ協会の若い会員が少なく、高齢化しています。明石ですずっと暮らしてきている方たちばかりなのですが、ろうの高齢者が入れる障害にあった施設は淡路島にしかなく、遠いので、明石市に障害にあった施設ができればと思います。また、障害にあった対応ができる職員も増えればと思っています。

(G委員)

インクルーシブアドバイザーという制度が紹介されていますが、担当部署だけで他の部

署の方々にあまり知られていないようなのです。これからは、まちづくりの課題に障害者の視点も加えていかないといけない流れだと思います。このインクルーシブアドバイザーという形を活用し、まちづくり全般に活かしてもらえるかは市役所の皆さん次第なので、当事者の思っている考えを知る機会だったり、地域の課題に対して、アドバイザーをうまく使ってほしいと思います。市役所の皆さんに、当事者の視点をどのように生かしてもらえるのか期待もしていますし、必要なのではないかと思います。

また、「やさしいまち」というキーワードを今後も続けていただきたいと思います。その中で、中高生、大学生の皆さん、地域の皆さんへも、障害当事者から協力できることはあると思います。

(B委員)

ふれあいサロンには男性が少ないと先ほど話がありましたが、カラオケ喫茶には男性が多くて、中には酸素ボンベを引きながら来られている人もいますし、障害のある若い子を持ったおじいちゃんはその人の面倒を見ながら来ていたりするので、そういう方はサロンに行きたいけどなかなか行けないと思うので、サロンにカラオケとか組み入れたら、ちょっと来てみてもらえて、楽しめるのではないかと思います。

(K委員)

地域の話ばかりになっちゃいますけど、先ほどもフレイルの話が出ていましたが、先日まち協が主催で校区の敬老会がありまして、そこでフレイル体操や栄養の話をしてもらったりしました。去年は350人ぐらい参加があり、今年は中学校の吹奏楽がなかったからか、300人弱ぐらいの参加でした。沢山来ていただけると嬉しいなど考えていますが、難しいところもあり、地域ではそんな感じです。

(会長)

最後、言い切れなかったところは何かありますか。

(J委員)

何人か、市長さんに対する思いをおっしゃられてて、私もどの方向に向かって行って、何をされたいのか伝わってこないように感じています。

前市長が強烈だったので、今は市民から見ると難破船状態だと思います。

各地に出向いて行って、カフェとか、ワークショップもいいですけど、担当部署はたいへんだと思います。聞いてばかりで、ここから進んだことがないように感じていて、明石市として、どこに向かって走っていきたいのかということも、もう少し明確に発信してほしいです。市民と話を決めていくとかじゃなくて、市長ですから権限がたくさんあるんですから、もう少し市長の色を出してもいいのかなと思います。せっかく明石で初めての女性市長なんだからと思っています。